

## 第7回総合行政審議会（第16期）議事録

日時：令和4年1月21日（金）15：30～

場所：勝山市役所3階第2会議室

### 1 開会

### 2 議事

《第6次勝山市総合計画（案）および第2期勝山市地方創生総合戦略について》  
「地域の未来を創る-政策目標1」について事務局から資料説明

小泉綾委員

市としては、市民が主体で何かに挑戦する時に支援をしますというスタンス、ということだと思うが、何をすればいいのか、何を支援してくれるのか、いまいちはっきりしないように思う。

また、何かに取り組むとしても各個別への支援となってしまう、薄く広くになってしまう懸念がある。

また、そうすると地域内外との連携や外部の人材の活用という話も、勝山市の魅力を外部にアピールしないと引っ張ってこれない。ではここで何を魅力として勝山市に引っ張ってくるつもりなのかよくわからない。そしてどういった人材を呼び込むつもりなのかよくわからない。いまいちはっきりとしていないように感じる。

山内委員

総合計画自体は前回も話に挙がったように、ある程度広く全体的なものにならざるをえないと思うので、こんな形で落ち着くのかと思う。ただし、総合戦略に関しては内容をもう少し具体的に絞ってもよいかと思う。

中村委員

島根県の海士町では高校が廃校寸前に陥り、国内留学生を募集したところ、一時は90名程度まで減った生徒数が、8年後には生徒数が倍になり、その6割が国内留学生だとのこと。また、自分を見直すための機会として20代くらいの若い世代に1年2年住んでもらうなどの取り組みをして、人が増えている。

海士町は現状を打開するために地域の特性に応じた目玉をつくった。勝山市も、他には無い特徴は何かを考える必要がある。そうでなければ、結局規模の大

きい他市町に負けてしまう。

度々インバウンドの話になるが、インバウンドのよいところは短期間に大量の収支があるということ。また、投資が少なく済むということ。

みな日本人を呼び寄せようということに注力しがちだが、外国人が集まるような施策をすれば、日本人も自然と寄ってくる。

#### 太田委員

基本的な方向性2について、高齢者が増加し、若者の負担も増加しているという現状の中で、研修の実施はどこまで効果があるのか。

そもそも変えないといけないのは、今いる上の層。どれだけ次の世代にバトンを渡せるのか、次世代に控えている若い世代をどれだけ受け入れられるのか、そういったところで「今いるリーダー層」への意識改革・教育がまず必要。

そして次の世代の人達には、研修よりも、一緒に頑張れる者同士で繋がれる横の仕組みをつくってあげるほうが大切だと思う。

#### 塚本委員

太田委員の指摘のとおり、自由な発想で一緒に頑張れるような横のつながり（アソシエーション）をつくるということが必要だと思う。そして、新しいアイデアを取り入れられる仕組みをつくる必要があると思う。

ヨーロッパでは各NPOがバラバラに動くことを防ぐために、中間組織をつくったりしている。そういった各組織をつなぐ、具体的な仕組みをつくる必要がある。

#### 中村委員

例えばだが、勝山から大野までのサイクリングロードをつくり、各10地区に中継ポイントを設けてまわってもらうなど、今の「地域の未来を創る」にはそういった目玉になるような大きな目標がない。

#### 小泉綾委員

商工会議所などでも、人材発掘に関する様々な取り組みなどを検討している。塚本会長の指摘のあったとおり、中間組織をつくっていただきそういった取り組みに対して「支援します」ではなく「します」と言い切ってほしいと思う。

## 「地域の未来を創る-政策目標2」について事務局から資料説明

石塚委員

区長について、私の実家のある地区も区長の成り手が非常に少ない。どういう方法で選出しているかは分からないが、各地区の区長さんのモチベーションにも大きく差があると思う。

区長を補助するのは公民館職員などになると思うが、非常に重要な役割になると思う。区長さんを支援する方に関する記載をもう少し盛り込めるとよいと思う。

○未来創造課 谷内

今後地域のまちづくりはまちづくり会館を中心に進めていく。その時にまちづくり会館をどう活用していくかということは各地区の区長に決めてもらう。

当然まちづくり会館の中には市の職員がいるため、しっかりとサポートしていく。

山内委員

行政協力員および行政区の見直しというのは、大きな区のことか、小さな区のことか、こういった意味合いのことを言っているのか。

○未来創造課 谷内

市長もよく言っていることだが、数人しかいない区でも、数百人いる区でも行政協力員は現状一人で非常にアンバランスな状況となっている。

人数比に応じて設置してもよいのではないかと、複数の区で行政協力員一人としてもよいのではないかと、など柔軟に検討していきたいということ。

中村委員

私も平泉寺区の区長をしているが、中々自分から進んで区長になったという人は少ないと思う。だから何も進まない。今後どんどん縮小していくし、人材もない。空き家問題なども進行していくが、皆自分の任期を無難に過ごせばよいと思っている。

そういう意味ではまちづくり会館というのはありだと思う。区毎ではなく、もっと全体で考えていかなければならない。

塚本会長

まちづくり会館を通じた動きについては現実味があってよいと思う。

石塚委員

計画の方向性については、これでよいと思うが、行政協力員に対するバックアップの仕組みについて、もう少し分かりやすく指針のようなものを記載していただければと思う。

大石橋委員

まちづくり会館については、各公民館を置いたまま新たに設置するというとか。

○未来創造課 谷内

今ある各公民館をまちづくり会館に変えるということ。そして教育委員会部局から市長部局に移行する。

今までの公民館本来の立ち位置というのは社会教育施設である。今後は幅広い業務を行えるようになる。まちづくりの拠点としていく。

例えば、村岡地区なら村岡地区をどうしていくかということを発信・実践していく場になる。それを進めて行くのが各地区の区長さんになる。それをサポートするのは会館職員というようなことを想定している。

ただ、エリアが広い地域については細分化など検討が必要な部分もあるかもしれない。

石塚委員

公民館改革と行政協力員の改革を別個に記載しているため分かりにくい部分がある。公民館改革を記載したうえで、協力員という順のほうが分かりやすいと思う。

#### 「地域の未来を創る-政策目標3」について事務局から資料説明

山内委員

地域内交通についてはぜひ実現していただきたい。実現には行政の協力が欠かせないと思う。

○未来創造課 谷内

地域内交通については、永平寺をモデルに想定している。地域内などでまわれる足があれば、免許返納後などでも、ちょっとした会合などにも参加しやすくなると思う。

## 「まちの楽しさを創る-政策目標1」について事務局から資料説明

小泉綾委員

お金と資材と時間が豊富であればすべて実現可能かと思う。自然が魅力という意見があったが、外部から見てもそうなのかという検証は必要かと思う。お金と資材には限りがある。見極めていかなければならない。

○未来創造課 谷内

観光に関する担当課が、来年度からは観光施策や外部リサーチに関する業務に特化できるように機構改革を行う予定。

塚本会長

色々なところで行っている手法ではあるが、外部から学生などを呼び込み、例えば左義長を体験してもらい、何が必要かを見てもらう。また、インスタグラムなどで情報発信をしてもらう。そういった取り組みも必要かと思う。

太田委員

専門的な人材を取り入れていくと同時に内部の人も積極的に取り組んでいく必要がある。行政が旗をふるだけでなく商工会議所や企業などの協力も必要。

小泉委員のおっしゃるように、中と外の意識の差異については、しっかりと検証が必要。モデルツアーなどを実施するとよい。

また、何かやりたいと思うがアクションに起こせない人、アクションに起こしたが2年3年と続けていけない人、そういった人に対するバックアップがあるとよい。

川端委員

ジオパークについての考えは何かあるか。今の担い手は高年齢化が進んでいる。また、ジオパークガイドというものをそもそも知らない人もいる。もっとアピールが必要だと思う。

○未来創造課 辻

ジオパークという言葉については、地域資源という言葉に埋もれてしまっているのでは、具体的な表現にしていけたらと思う。

## 「まちの楽しさを創る-政策2」について事務局から資料説明

川端委員

基本的な方向性3について、地域の祭はみんなで楽しく参加できるものがないと思う。

○未来創造課 辻

担当課にも伝えてしっかりと協議する。

小泉綾委員

左義長が一番大きいと思うが、他にも色々あると思う。しかし私は他にどんなものがあるのかをよく知らない。そういう情報を外部だけではなく、市内向けにも周知をしてほしいと思う。

基本的な方向性4の高齢者の就労については、ハローワークや企業などとも協力しながら、しっかりとやっていってほしいと思う。

山内委員

すべての風習などを存続するのは不可能に近いと思う。記録として残すというのもアリだと思う。

○未来創造課 谷内

日の目を見ないものなども含めて、どのように活用していくかということは庁内でも検討中。そういった会議の中でも、こんなものがあるんだという発見もある。

先ほどの集落合併の話も含めて、しっかりとそういった伝統文化は残していきたい。

富田委員

高齢者の就労等については、ハローワークと連携してやっていくとよい。

また、やりたいことに挑戦できる人として、中高年世代の人達の記載が不足しているかと思う。

太田委員

まちづくり会館が多世代の繋がりになればいいと思うが、なんでもできるという逆になにをしていいかが分からなくなる。そうすると旧来の公民館と変わらなくなってしまう。

ここはどういったことに使ってもらえる場所ですよということをしっかりと定めて、広報周知していくことが必要。

○未来創造課 辻

なんでもいいよという表現から、再三指摘を受けているとおり、勝山の強みというものを見出して表現していきたい。

塚本会長

リカレント教育などでも県大を使ってもらえればと思う。

また、性的少数者に対する高齢者の意識は変わりにくいと思うが、鳥取かどこかで中学生に授業をし、その内容を身内の高齢者に話すとスッと理解してもらえたという話もあった。直接的なことだけではなく、繋げていく視点というのも大切にしてほしい。

山内委員

話は変わるが、勝山市市民憲章について、これはいつからあるものか。

○未来創造課 谷内

今回つくったもの。第3次ときには市民指標という形でお示ししている。

第4次、第5次にはなく、第5次では目指すべきまちの姿「小さくてもキラリと光る～」を目指して市民もやってみようということだった。

今回の第6次では、市民の人にも一緒にやってみよう意識をもってもらえるために、こういった気概を持ってやってみようということで、お示しさせていただいた。内容についてはまた議論いただきたいと思う。

### 3 閉会